

自主的・実践的によりよい集団を築こうとする学級づくりを目指して

—課題の設定から振り返りまでの一連の活動における学習過程の充実を通して—

名取市立みどり台中学校 畑中 麻衣子

1 はじめに

(1) 授業づくりに関わる課題

これまでの学級活動における教師の課題として、資質・能力の向上につながる学習過程について、十分に吟味していなかったことが挙げられる。そのため、行事に取り組むことや話し合い活動をさせることが目的となってしまう、課題設定から振り返りまでの一連の活動を見通した指導計画が十分に練られていなかった。また、生徒の実態として、既存の人間関係が固定化しており新しい人間関係を築くのに時間が掛かる生徒が多いことや、集団の課題を自分事として捉えておらず、話し合いにおいて積極的に発言する生徒に限られていること、周囲のために自分から行動する生徒が少ないことが課題として挙げられる。

以上のことから、生徒同士の関係づくりを意図的に行うとともに、生徒自身が学級をよりよくしていくとする自主的・実践的な態度を育てていく必要があると考える。

(2) 研究主題について

中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別活動編に、学級活動において育成を目指す資質・能力は、図1のような学習過程の中で育まると示されている。

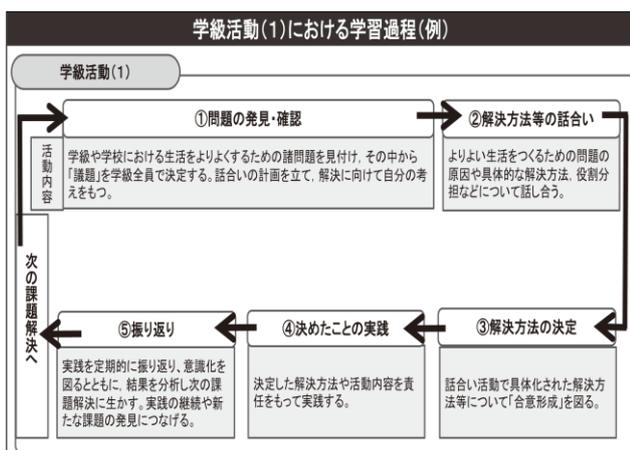


図1 中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別活動編で例示された学習過程（例）

このことを受け本研究では、課題の設定から振り返りまでの一連の活動における学習過程の充実を通して、自主的・実践的によりよい集団を築こうとする学級づくりを目指していきたいと考えた。なお、

本研究における「学習過程の充実」とは、図1のサイクル（学習過程）が回を重ねるごとに深化していくことと捉える。例えば、生徒が課題を見いだす視点が増えてきた、合意形成の過程で意見が異なっても課題解決という目標に向けて折り合いをつけ納得を得ながら進められるようになってきた、活動の中で仲間のよさを引き出し適切な役割分担をしながら協働する姿が見られてきた、そして次の活動へと意欲を高めていく等と考える。

2 研究の内容と方法

生徒たちは、これまで自治的な活動の経験が少なかったことから、Ⅰ期は教師がある程度関与し、課題の設定から振り返りまでの一連の活動をサイクルとして回し、成功体験を積み重ねていく。達成感を味わわせ、自主的に取り組む意欲を育むことに主眼を置く。学級生活の問題について生徒が自ら気付くような仕掛けや場面を設定し、見いだした問題を自分たちの手で解決する活動を考えさせ実行させる。授業実践では、図1の学習過程(例)の⑤振り返りを行う。Ⅱ期では、Ⅰ期での経験を踏まえ、より主体的に生徒たちが学級の状況から課題を設定し、解決方法を決定及び実践できるように指導する。授業実践では、図1の学習過程(例)の①～③を行う。

併せて、よりよい学級を目指してお互いに信頼し、協働できるように学級の人間関係づくりにも年間を通して努めていく。

(1) 達成感を味わわせる活動の工夫

学級目標の達成に向けて、生活班ごとに具体的な活動を考え2週間程度を1サイクルとして取り組ませる。2週間程度としたのは、生徒たちに意欲的、且つ確実に取り組ませ、短期間で修正も図れるからである。Ⅰ期では2サイクル実施する。自分たちで考えたことを行動に移し、学級全体で共有することにより、自分が学級に貢献していることを実感させ、達成感を味わわせる。そして、成功体験を積み重ね、自己有用感や自主的に取り組む意欲を高める。Ⅱ期では、課題設定及び解決方法を更に吟味し、実践力を高めていく。

(2) 学級の課題を明確にし、共通理解を図る工夫

① Ⅰ期：学級の実態に即した課題の設定

学級目標として生徒たちは、クラス独自の四文字熟語「全力安全」「全力集中」を二本柱として設定し

た。学級の状況は変化していくことから、成長段階や時期に応じてこの二本柱の捉えについて話し合う。その捉えを踏まえて、生活班で課題を設定し、どのような活動を行うことで解決できるかを話し合い、活動させる。

② II期：キーワードの提示によるイメージの共有

1学期末の話合いの中で、お互いが安心して過ごせる環境を整えることや人間関係づくりが学級の課題となったことから、2学期のスタートは学級目標「全力安全」に重点的に取り組むこととし、目指す学級として「心が温まるクラスにしよう」というテーマを設定した。2学期の話合いの前に生徒に「心が温まるクラス」についてアンケートを取り、AIテキストマイニングを用いてキーワードを提示する。なお、AIテキストマイニングは、文章（テキスト）を単語ごとに分割し、出現頻度をAI機能で分析、表示するツールである。そのキーワードを基に「心が温まるクラス」に迫るために必要な活動を各班で話し合う。

(3) 自己有用感を高める振り返りの工夫

① I期：自分のよさを確認できる振り返り

自分のよさを確認できる「ふりかえりシート」を活用する。朝の会で、目標を記入し、帰りの会で振り返る。個人で考えたことを生活班、学級全体で共有するが、特に良かったことに着目し、朝の会で前日の活動で良かったことを学級全体で共有する。

② II期：スライドを活用した視覚的な振り返り

II期では、授業の導入部分で、これまでの学級のあゆみをスライドで提示する。学級の変容や自分自身の成長、人間関係の深まりを実感させ、更によりよい学級にしていこうとする意欲を高める。

(4) 人間関係づくりの工夫

学級全体や生活班で話し合う際に、話合いのスキルも大切だが、根底には生徒同士や生徒と教師の人間関係が土台となる。よりよい人間関係を築いていくために必要な気付きや学びは、人と関わる体験を通して得られると考える。このことからコミュニケーションアクティビティ等を実施し、人との関わりについて体験的に学ぶ機会を設ける。

3 研究の結果と考察

(1) 達成感を味わわせる活動の工夫について

〈I期の取組〉

① 生活班で活動内容を決めて実施

図2のように学級目標の達成に向けて、学級の課題を捉え、具体的に何をどう活動していくかを話し合い、実行させた。一人一人が当事者となることで個と生活班、そして学級全体への関わりを意識しながら、活動する様子が見られた。また、目標実現に向けてコミュニケーションを取らなければならない必然性が生まれ、仲間意識が芽生えてきた。

② 期間を決めての活動と振り返りの実施

表1のように図1のサイクルを2回行った。

表1 I期における活動サイクルの実施期間

| | 活動期間 | 振り返り実施日 |
|-----|----------------|---------|
| 1回目 | 6/21(月)～7/2(金) | 7/5(月) |
| 2回目 | 7/6(火)～7/14(水) | 7/14(水) |

A班 帰りの会で密を避けることができたかABCで振り返る

- ・必ず帰りの会で密を避けることができたかクラスの皆に確認して、密を避ける人が多くなってきた。
- ・自分の一日の行動を振り返れて良かった。

B班 あまり関わっていない人と関わる

- ・今まで関わったことがあまりない人と関わったことで、クラスがもっとよい雰囲気になってきた。
- ・たくさん話し掛けていたら自然に相手からも話し掛けてくれるようになった。

C班 チャイム着席の呼び掛けをする

- ・授業がすぐに始められるようになった。
- ・時計を見て行動することが多くなった。

図2 各班の活動内容と生徒の振り返りの記述（授業実践Iより）

〈II期の取組〉

① 生活班で活動内容を決めて実施

I期での経験を生かしてII期では「〇〇キャンペーン」と題して生活班で2週間の活動内容を考え、クラス全体で取り組める活動を実施した。なお、自分事として活動させるために、後述の(2)②のようにアンケートを実施し、キーワードを提示した後に活動内容を決めた。

② 期間を決めての活動と振り返りの実施

表2、表3のように図1のサイクルを2回行った。振り返りでは、図3のように達成感や次の活動への意欲等が多数見られ、図1のサイクルが円滑に回るようになってきた姿が見て取れた。

表2 II期における活動サイクルの実施期間

| | 活動期間 | 振り返り実施日 |
|-----|------------------|----------|
| 1回目 | 10/21(月)～11/6(金) | 11/13(金) |
| 2回目 | 11/8(月)～11/19(金) | 11/24(水) |

表3 II期における各班が挙げた活動内容

| | |
|------|-----------------------------------|
| A班① | 進んであいさつしようキャンペーン |
| 内容 | ・あいさつを自分からした回数を帰りの会で振り返る。 |
| 設定理由 | ・あいさつの習慣が身に付く。 |
| A班② | 今日のMy best event キャンペーン |
| 内容 | ・一日を振り返り良かったことを伝え合う。 |
| 設定理由 | ・良かったことを振り返ることによって笑顔になる。 |
| B班 | 質問キャンペーン |
| 内容 | ・帰りの会に日直に質問できる。 ・プライベートな質問はNG。 |

| | |
|------|---|
| | ・日直に拒否権あり。 |
| 設定理由 | みんなのことをより知ることができる。 |
| C班 | トーキングキャンペーン |
| 内容 | ・帰りの会のときに日直がくじを引く。 ・くじに書いてあるお題について班で3分間話す。 |
| 設定理由 | ・男女で楽しく話せるように。 ・クラスの空気が今よりも明るくなる。 |

| |
|--|
| ○キャンペーンをしてよかったこと |
| ・楽しみながらお互いについて知れた。 |
| ・自分から挨拶しようという意識が高まった。 |
| ・一日の終わりに良いことや嬉しかったことを話すともるくポジティブな気持ちになれる。 |
| ・話したことがない人と話す良いきっかけになった。 |
| ・回数を数えていたことによって、もっと話してみようという意識になった。 |
| ・クラスの人と会話する回数が確実に増えて嬉しかった。 |
| ○「もっとこうするとよい」というアイデアや改善点 |
| ・クラスへの声掛け等に差があったので、どのキャンペーンも声掛けや振り返りを入れると良い。 |
| ・もっと長期間に渡ってやった方がいいと思う。 |
| ・クラス全体で1つのキャンペーンをやってみたい。 |
| ・学級だけではなく、学年全体でやったら団結力が高まり、仲が深まると思う。 |

図3 生徒の振り返りの記述（授業実践Ⅱより）

(2) 学級の課題を明確にし、共通理解を図る工夫について

① I期：学級の実態に即した課題の設定

学級目標に迫るために、生活班で話し合いを行い表4のような活動を設定した。I期は、まずは図1の一連の活動をサイクルとして回し、達成感を味わわせ、自主的に取り組む意欲を育むことに主眼を置いたことから一定の達成感を得ることができた。一方、適切な課題の設定という点においては課題が残った。

表4 各班の活動内容の抜粋（授業実践Ⅰより）

| | |
|----|----------------------------|
| A班 | 帰りの会で密を避けることができたかABCで振り返る。 |
| B班 | あまり関わっていない人と関わってみる。 |
| C班 | チャイム着席の呼び掛けをする。 |

② II期：キーワードの提示によるイメージの共有

生徒たちへの事前アンケート結果を基に、図4のようにAIテキストマイニングを活用して「心が温まるクラス」のキーワードを提示した。表示されるキーワードの大きさや色について説明を加え、イメージを学級全体で効率よく共有したことで、「○○キャンペーン」と題して活動を考える際にスムーズに話し合いが進んでいた。



図4 AIテキストマイニングによるキーワード

(3) 自己有用感を高める振り返りの工夫について

① I期：自分のよさを確認できる振り返り

「ふりかえりシート」を使って、朝の会で「前日の自分の取組の良かった点」と「本日どのようなことに取り組むのか」、帰りの会で一日の振り返りを共有した。生徒自身に実現可能な目標を設定させ、成果を可視化させた。蓄積された記録を見ながら、お互いのよさを確認するとともに、次の活動に向けて話し合う様子が見られた。

| <目標達成に向けて取り組むこと> ・私語・密になっている人への声かけ ・帰りの会での振り返り(A・B・C) | |
|---|---|
| 日付 | 一日の取組から(気づきや学び) |
| 6月22日(火) | 声かけをする。 帰りの会で振り返りはできた。明日は仲いい人から声かけしたい。(AOK B14A C10) |
| 6月23日(水) | 仲いい人から声かけを始める。 少しは声かけできた。明日はより多くの人に注意できるようにしたい。 |
| 6月24日(木) | 3回は声かけする。 2回はできた。明日こそ3回はできるようにしたい。 |

図5 生徒が記入した「ふりかえりシート」

② II期：スライドを活用した視覚的な振り返り

II期の授業では、授業の導入に4月からの学級のあゆみをスライドで提示した。具体的には、学活や行事の写真を見ながらこれまでのクラスの様子を振り返った。生徒たちは、この半年間を視覚的に振り返ることでクラスの成長や変容を実感し、次の活動への意欲が湧いてきた様子であった。

(4) 人間関係づくりの工夫について

エンカウンター等のアクティビティを数回実施した。例えば、「ラインナップ」というアクティビティでは相手を大切にしておくことについて、「動物当て」というアクティビティではコミュニケーションの工夫について、体験及び体験後の振り返りを通して考えさせた。生徒から「普段あまり関わらない人と楽しく話せた」「質問が相手にとって分かりやすいか工夫した」等の感想が挙がった。このような活動の意図的、計画的な実施は、生徒がよりよい人間関係を築いていくための気づきを得る機会となった。

4 研究の成果と課題

本研究では、生徒たちに図1の「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別活動編で例示され

た学習過程（例）」を参考に、学級の課題の設定から振り返りまでの一連の活動を体験させた。これまで自治的な活動の経験が少なかった生徒たちにとって、この一連の活動を行ったことは、一定の達成感を味わうものとなった。特に話し合いにおいては、自分たちで課題を見だし、解決策を考え、実行したことで、当事者意識が生まれ、話し合いをする必然性を生徒自身が実感しながら臨んでいた。Ⅱ期では、Ⅰ期での経験を生かし、生徒たち自身が課題設定及び解決方法を吟味し、自分たちなりにより効果的な活動になるように心掛ける姿が見られるなど、実践力が向上している様子が見られた。また、自分たちの想いをキーワードとして共有して取り組んだことで、学級生活を自分事として捉えて話し合い、活動する様子が見られるなど、よりよい学級をつくろうとする自主性が育まれてきたと感じた。振り返りでは、「○班のキャンペーンを今後シリーズ化したい」「○班のキャンペーンは今後も続けた方がよい」等という声が挙がり、話し合いの結果、3学期にクラス全体でのキャンペーンを実施していくこととなった。このことから、生徒たちが自分たちの意思で図1のサイクルを回しはじめる状況になってきたと考える。

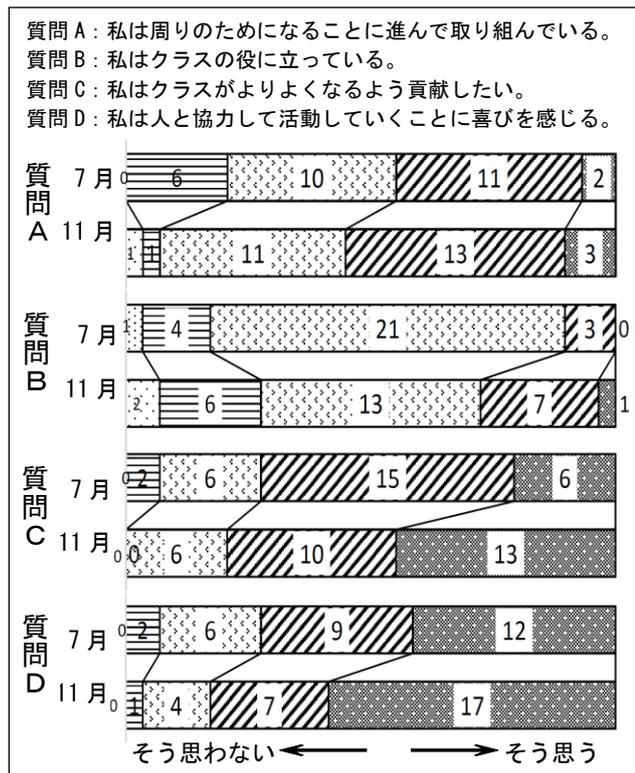


図6 生徒への意識調査の結果 (7月, 11月 単位は人数)

生徒への意識調査の結果からは、6月からの活動を通して、学級をよりよくしようと行動に移したり、学級の一員として役に立ちたいという思いが高まったりしている生徒が増えたことが分かる。一方で、「クラスの役に立っている」という項目において、7月実施の意識調査よりも11月の方が低く回答している生徒がいる。活動を継続していく中で「本当に相手の役に立つとはどういうことか」について深

く考えるようになり、学級の課題をより自分事として捉えられるようになったということと分析する。以下は生徒たちの振り返りのコメントである。

〈クラスの変化〉

- ・4月は決まった人としかしゃべっていなかったけれど今は男女みんなとしゃべっている人が多くなった。
- ・お互いに呼び掛けや注意ができるクラスになった。
- ・挨拶が多くなった。
- ・口だけでなく、行動に移せるようになった。
- ・最初は挨拶も限られている人だけだったけれど、今はすれ違った人たちと挨拶をして、挨拶が絶えないクラスになったと思う。
- ・優しい行動が増えた。
- ・クラス全体が温かい雰囲気になった。

〈自分の変化〉

- ・話し合いで自分から発言できるようになった。
- ・自分から話し掛けに行くことが増えた。
- ・班でのキャンペーンで自分から話すことも増えて、みんなと仲良くできた。
- ・活動していく中で皆が「楽しかった」「もっとやってほしい」と言ってくれて、どうしたらもっと皆が笑顔になってくれるか考えるようになった。
- ・班活動の時、仲の良い人が同じ班にいらなくても意見を言ったりすることができた。
- ・キャンペーンのおかげで、自分から挨拶をしたり相手の顔を見たりするようになった。
- ・前よりは進んで物事をやるようになった。
- ・気軽に挨拶をできるようになった。
- ・クラスのためになりたいと思うようになった。

図7 生徒の振り返りの記述 (キャンペーン後の振り返りより)

今後の課題は次の3点である。1点目は、生徒の自主性・実践力を一層高めていくことである。これまで2回の実践を行ったが、いずれも教師のコーディネートによる部分が大きかった。徐々に生徒たちに任せる部分を増やし、生徒たちの活躍の場を広げていく必要がある。2点目は、活動を継続させる工夫である。活動が単発のイベントにならず、且つマンネリ化せずに生徒たちが達成感や充実感を得るためには、生徒の状況を的確に把握し、活動の時期や生徒の負担感に配慮する必要がある。また、これまでの経験を踏まえた新しいチャレンジは、生徒の活動意欲を引き出すものとする。3点目は、3年間を見通し学年、学校全体として、学級活動の充実を図っていくことである。その際、小学校段階の経験も踏まえる必要もある。まずは、学年の教員と年間指導計画を整理し、共通理解を図りながら進めていきたい。

【図表等の許諾について】

図2, 3, 7は生徒がアンケート等で書いたコメントの一部である。また、図5は、生徒が記入した「ふりかえりシート」の一部である。氏名や個人が特定できるものは掲載せず、研究の目的にのみ使用することとし、生徒及び生徒の保護者、所属校の校長から使用許諾を得た。